

クラシックコンテスト

古典の日記念
朗読コンテスト

表現力が評価され大賞に

上宮田の松原あかねさん



平家物語の文を手にする松原さん

同コンテストは、古典に親しみを持つてもらおうと2008年に1回目が開催された。審査員は、女優や劇団俳優、元アナウンサーなど5人で、審査委員長は作詞作曲家の新井満氏（13回目の審査委員長は故児玉清氏）。

ト「第4回古典の日記念朗読コンテスト」（古典の日推進委員会主催）で、全国の中から松原あかねさん（三浦市上宮田）が、最上位の大賞を受賞した。優れた表現力が評価されての受賞となつた。

古典を朗読し、表現力などを競うコンテスト

んは一般部門の229件の中から選ばれた。
10月に主催者から大賞の知らせが届いた。「今でも信じられない。まさか私がという気持ち」と、驚きの様子を隠しきれない。

課題に選んだのは平家物語の「先帝身投」。平家の負けが濃厚となつた壇ノ浦の合戦で、二位の尼は若干8歳の安徳天皇とともに入水するというもの。「情景を思い浮かべ、二位の尼の心情を考えながら朗読した。無念さなど様々な思いがあつたと思う。難しかつたが、自分なりに表現できた」と振り返る。主催者は大賞の理由を「審査項目全てが高得点だった。特に、感情の表現力に長けていた。聞く人の立場に立った伝わる朗読」と評価した。

松原さんは、朗読ボランティア「ひばりの会」に属している。約20年間、同会で朗読を学び勉強している。絵本の読み聞かせなど

決められた4つの課題から一つを選び、指定された範囲をテープに録音して送り、審査を受ける。審査の対象は、表現力、発声や発音、作品の理解力。コンテストは、一般と中学・高校生部門の2部門で、応募は全国から278件。松原さ

コンテストは、ひばりの会を指導している遠藤美枝さんから勧められた。課題に選んだ平家物語は、毎年10月開催の同会発表会のテーマにしていたことも挑戦への後押しとなつた。

受賞の知らせに、同会代表の脇坂清子さんは「作品を深く読み込み、表現力が長けている。滑舌も良い。全員で大賞を喜んだ」。同会を指導する遠藤さんは「力がある人なので、受賞は喜ばしい」と話した。

松原さんの朗読音声は、主催者のホームページ(www.kotemohi.jp/contest.html)から聞くことができる。

*古典の日／紫式部日記の記述に11月1日という記述があることから07年、京都府などが中心となつて立ち上げた「源氏物語千年紀委員会」が提案、11月1日は古典の日とされている。